



現代社会における多様なリスクに対処する 法とガバナンスのあり方

日時:令和8年9月28日(月)13:00~17:30

会場:日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

オンラインとのハイブリッド開催

- ✓ 一般参加可能
- ✓ 参加費無料
- ✓ 事前申込み要
(下記参照)



〔プログラム〕

総合司会

川和功子(日本学術会議連携会員、同志社大学法学部教授)

13:00 挨拶

川嶋 四郎(日本学術会議第一部会員、同志社大学法学部教授)

13:05 「リスク社会と民主主義」

中山 竜一(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院法学研究科教授)

13:25 「現代社会が抱える様々なリスクとそれに対する対応
—環境リスクへの対応を中心として」

大塚 直(日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学学術院教授)

13:50 「デジタル化に伴うリスクと対応」

千葉 恵美子(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院招聘教授)

14:15 コメント

落合 孝文(弁護士、渥美坂井法律事務所・外国法共同事業シニア・パートナー)

14:35 質疑応答

14:40 休憩(15分間)

14:55 「感染症リスクと対応」

米村滋人(日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

15:20 コメント

関なおみ(感染症危機管理研究センター危機管理総括部長)

15:40 質疑応答

15:45 「地方での人口減少リスク、気候変動災害リスクと対応」

山下竜一(日本学術会議連携会員、専修大学法学部教授)

亘理格(日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

16:10 コメント

内海麻利(駒澤大学法学部教授)

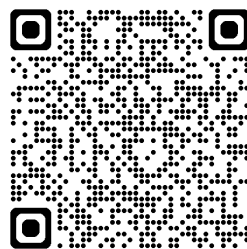
16:30 質疑応答

16:35 質疑応答・ディスカッション(報告者全員参加)

17:05 「総括的コメント、閉会挨拶」

大塚 直(日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学学術院教授)

▼参加はこちら▼



お申し込み

申込締切:令和8年9月23日

<https://forms.gle/Dhzj9ALQ3uZmh4uQ6>

主催

日本学術会議、法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会

環境問題の解決と持続的水産業の両立を目指すブルーエコノミー ー気候変動対策を組み込んだ新たな水産業への科学的貢献を探るー

令和8年9月30日(水)13:00~17:00

オンライン配信【参加無料】

参加申込: <https://forms.gle/pQkDSeX4Xe3VGz6LA>

(締切: 9月25日(金) ※定員500名 (先着順))

参加申込用
QRコード



プログラム

開会の挨拶

13:00~ 大越和加(第二部会員日本学術会議第二部会員/東北大学名誉教授)

趣旨説明

13:05~ 温暖化対策と水産業成長化の架け橋となるブルーカーボン

堀 正和(日本学術会議連携会員/水産研究・教育機構水産資源研究所
社会・生態系システム部 副部長)



話題提供

座長: 堀 正和(日本学術会議連携会員/水産研究・教育機構水産資源研究所
社会・生態系システム部 副部長)

13:20~ 計測算定技術・カーボンクレジット制度の進展と動向

桑江朝比呂(港湾空港技術研究所特別研究主幹/ジャパンプルー
エコノミー技術研究組合理事長)

14:00~ 他分野企業と水産業との連携によるブルーカーボン活用の取り組みと
課題 その1: 藻場再生・拡大の現場から

小杉知佳(日本製鉄(株)先端技術研究所 環境基盤研究部)

14:25~ 他分野企業と水産業との連携によるブルーカーボン活用の取り組みと
課題 その2: 海藻養殖の現場カイゼンによるブルーカーボン拡大

山下哲也(トヨタ自動車(株)環境エンジニアリング部グループ長)

14:50~ 社会普及の動向と課題: 日本のマスメディアは、誰にどう伝えているか
梶 太一(同志社大学ハリス理化学研究所助教)

15:15~15:25 休憩時間



総合討論「温暖化対策と水産業成長化の両立を実現していくために」

15:25~

ファシリテーター: 牧野光琢(東京大学大気海洋研究所教授/笹川平和財団海洋政策研
究所所長)

パネリスト:

堀 正和(日本学術会議連携会員/水産研究・教育機構水産資源研究所社会・生態
系システム部副部長)

桑江 朝比呂(港湾空港技術研究所特別研究主幹/ジャパンプルーエコノミー技術
研究組合理事長)

小杉 知佳(日本製鉄(株)先端技術研究所 環境基盤研究部課長)

山下 哲也(トヨタ自動車(株)環境エンジニアリング部グループ長)

梶 太一(同志社大学ハリス理化学研究所助教)

芳野 正(国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長)

伊藤 進一(東京大学大気海洋研究所教授)

東海 正(日本学術会議連携会員/東京海洋大学名誉教授)

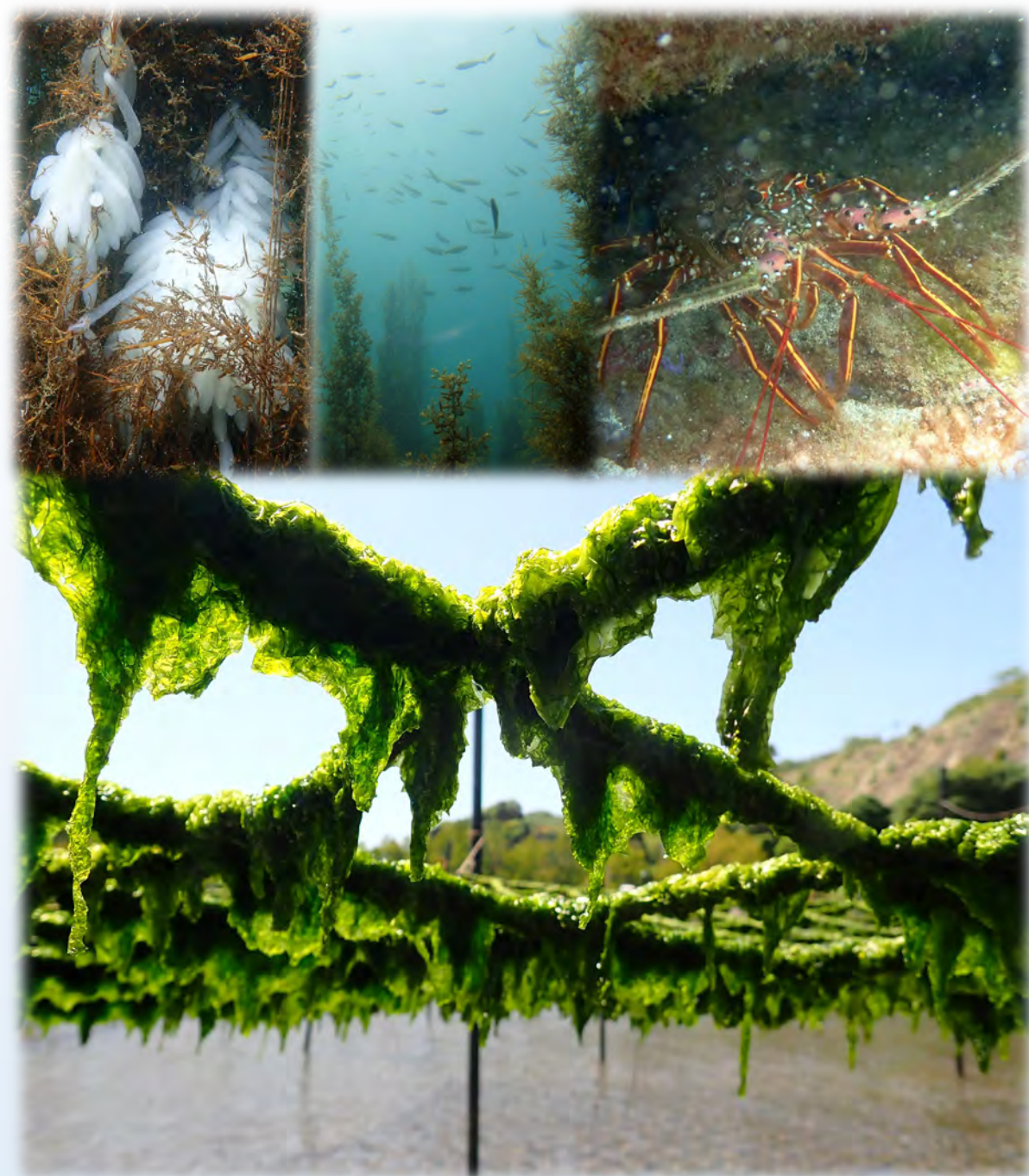
八木 信行(日本学術会議連携会員/東京大学特命教授室特命教授)

脇田 和美(日本学術会議連携会員/東海大学海洋学部教授)

原田 尚美(日本学術会議連携会員/東京大学大気海洋研究所教授)

閉会の挨拶

16:55~ 古谷 研(日本学術会議連携会員/東京大学名誉教授)



お問い合わせ先

高須賀明典 atakasuka(a)mail.ecc.u-tokyo.ac.jp ※ (a)を@にしてください

主催: 日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

共催: 日本学術会議生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、公益社団法人日
本水産学会

後援: 一般社団法人大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、一般社団法人水産海洋学会、日本付着生物学会、一般社団法人日本魚病学会、国際漁
業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、一般社団法人日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学
会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会、国立研究開発法人水産研究・教育機構

公開シンポジウム
「デジタル・AI が拓くスマート歯科医学・歯科医療の未来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会、臨床系歯学分科会、病態歯学系分科会、
基礎系歯学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本矯正歯科学会
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和8年（2026年）10月15日（木）15：45 ～ 17：15
5. 場 所：パシフィコ横浜国立大ホール（神奈川県横浜市西区みなとみらい1
丁目1-1）オンライン配信あり
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本矯正歯科学会との共催により、一般市民向け公開企画として開催され、デジタル技術とAI がもたらす歯科医学・歯科医療の最前線を、第一線の研究者の講演を通じてわかりやすく紹介し、未来の医療の姿を共に展望することを目的とする。超高齢社会において、「健康寿命」及び「幸福寿命」の延伸を支える鍵として口腔の健康が注目される中、歯科医療は従来の治療中心から、予防・予測・先制へと大きく変革しつつあり、その基盤としてAI、ビッグデータ、バイオインフォマティクス等を融合したデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が不可欠である。

本シンポジウムでは、今後の歯科医療及び歯学研究においてAIを活用する意義と課題、画像生成AIやAIエージェントを活用した材料開発、骨のリモデリングや代謝を再現する*in silico* バイオメカニクスなど、分野横断的な最先端の知見が紹介される。これらは、歯科医学と情報科学、材料科学、生命科学の融合により、新たな医療の可能性が切り拓かれつつあることを示すものである。

専門性の高い研究内容を一般市民にも開かれた形で共有し、「食べる・話す・暮らす」という人間の基本的営みを支える歯科医療の価値を再認識するとともに、AI時代における医療のあり方を共に考える場とする。学術と社会をつなぐ対話を通じて、誰もが生涯にわたり健やかで豊かな生活を享受できる未来社会の実現を目指す。

8. 次 第：

1) 開会挨拶

15:45 村上 伸也 (日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授)
新井 一仁 (公益社団法人日本矯正歯科学会理事長／日本歯科大学生命歯学部歯科矯正学講座教授)

2) 講演

座長

山城 隆 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院歯学研究科教授
／公益社団法人日本矯正歯科学会診療ガイドライン策定
委員会委員長)

後藤 多津子 (日本学術会議連携会員／東京歯科大学歯科放射線学
講座教授)

16:50 『AI が拓く歯科医学研究の新展開と今後の展望』

山口 哲 (大阪大学大学院歯学研究科教授)

16:15 『材料開発における画像生成 AI および AI エージェントの
可能性』

小山 敏幸 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人物
質・材料研究機構構造材料研究センター計算組
織設計グループ NIMS 招聘研究員)

16:40 『骨リモデリングのデジタル再構築』

安達 泰治 (日本学術会議連携会員／京都大学医生物学研究
所副所長・教授)

16:05 まとめ

3) 閉会挨拶

17:10 樋田 京子 (日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯
学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教
室教授)

地域における災害対応力をどう高めるか

日時：令和8年（2026年）10月17日（土） 12:30～14:00

場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、一般社団法人 防災学術連携体

開催趣旨：鳥取県西部地震、鳥取県中部地震、西日本豪雨など中国地方等における各種災害の経験を踏まえ、災害時の応急対応における課題や重要な視点、防災体制や対策について、最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家や行政と連携して発信します。そして地域における災害対応力を高めていくことにつなげることを目的とします。

参加費：無料

定員：1000名（Zoom ウェビナー）

申込方法：次のフォームからお申し込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/W0EKs6LVp3>

※当日の発表資料は、防災学術連携体のホームページに掲載いたします

<https://janet-dr.com/>



プログラム：

司会：山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学教授）
永野正行（日本学術会議連携会員、東京理科大学教授）

12:30 開会挨拶：竹内 徹（日本学術会議防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学名誉教授）

12:32 趣旨説明：小澤一雅（防災学術連携体代表幹事、土木学会会長、政策研究大学院大学特別教授）

12:34 「災害対応の課題と教訓—近年の災害から」
池内幸司（（一財）河川情報センター理事長、東京大学名誉教授）

12:49 「災害関連死と災害対応力」 酒井明子（福井大学名誉教授）

13:04 「地域特性を踏まえた水道システムのレジリエンス強化」 鎌田泰子（神戸大学教授）

13:19 「建築とまちづくりによる災害対応力の向上」
久田嘉章（日本学術会議連携会員、工学院大学教授）

13:34 「多様な主体との連携による災害対応力の強化」
西尾正博（国土交通省中国地方整備局統括防災官）

13:49 質疑応答

13:57 閉会挨拶：米田雅子（防災学術連携体代表幹事、宇都宮大学理事）



日本学術会議主催学術フォーラム



参加費無料

ハイブリッド
開催

脳の健康・ブレインヘルスと 社会的レジリエンス

— S7 2026を契機とした精神・神経疾患の統合的理解、
AI・オミックス解析、精密医療への展開 —

2026年Gサイエンス学術会議（S7）共同声明を契機として、脳の健康（ブレインヘルス）を個人の幸福と社会的レジリエンスを支える基盤として捉え直し、我が国における研究・医療・政策・社会実装の方向性を広く共有する。精神疾患と神経疾患の連続性、脳と末梢の相互作用、AI・オミックス解析、精密医療への展開を主題とし、当事者・家族・行政・研究者、医療者との対話を通じて、ブレインヘルス推進の課題と展望を考える。

会場

日本学術会議講堂
東京都港区六本木7-22-34

申込締切

10月13日(火)

事前参加登録をお願いします。

<https://forms.gle/ejtUaC6LoxTp93RM6>



主催 日本学術会議

共催 日本脳科学関連学会連合

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 Tel 03-3403-6295

2026
10
/ 18
日曜日

13:00～16:00



脳の健康(ブレインヘルス)と社会的レジリエンス

—S7 2026を契機とした精神・神経疾患の統合的理解、AI・オミックス解析、精密医療への展開—

▶コーディネーター

高橋 良輔	(日本学術会議第 26 期第二部会員／臨床医学委員会脳とところ分科会委員長／京都大学 研究戦略統括／総合研究推進本部参与／医学研究科多系統萎縮症治療学講座 特定教授)
柚崎 通介	(日本学術会議第 26 期第二部会員／基礎医学委員会神経科学分科会委員長／慶應義塾大学 WPI-Bio2Q 特任教授)

▶司会

林 由起子	(日本学術会議第 26 期連携会員／東京医科大学学長／病態生理学分野主任教授)
柚崎 通介	(日本学術会議第 26 期第二部会員／基礎医学委員会神経科学分科会委員長／慶應義塾大学 WPI-Bio2Q 特任教授)

▶スケジュール

13:00 ~ 13:05	開会挨拶 日比谷 潤子 (日本学術会議第 26 期副会長・第一部会員／国際基督教大学名誉教授)
13:05 ~ 13:10	趣旨説明『S7 共同声明を踏まえた本フォーラムの趣旨』 林 由起子 (日本学術会議第 26 期連携会員／東京医科大学学長／病態生理学分野主任教授)
13:10 ~ 13:25	基調講演『Advancing Brain Health (including Mental Health) for Global Societal Resilience』 Stéphanie Debette (Paris Brain Institute チームリーダー／主任研究者)
13:25 ~ 13:45	講演1『精神疾患と神経疾患の連続性を踏まえた研究の方向性：精神科医の立場から』 尾崎 紀夫 (日本学術会議第 26 期第二部長／名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学特任教授)
13:45 ~ 14:05	講演2『精神疾患と神経疾患の連続性を踏まえた研究の方向性：神経内科医の立場から』 高橋 良輔 (日本学術会議第 26 期第二部会員／臨床医学委員会脳とところ分科会委員長／京都大学 研究戦略統括／総合研究推進本部参与／医学研究科多系統萎縮症治療学講座特定教授)
14:05 ~ 14:15	休憩
14:15 ~ 14:35	講演3『精神・神経疾患と末梢を繋ぐ神経炎症』 古屋敷 智之 (日本学術会議第 26 期第二部幹事／東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授／神戸大学大学院医学研究科特命教授)
14:35 ~ 14:55	講演4『精神・神経疾患と末梢を繋ぐ睡眠障害』 皆川 栄子 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所モデル動物開発研究部特任研究室長)
14:55 ~ 15:15	講演5『AI を用いた精神・神経疾患の診断・層別化』 川人 光男 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所長)
15:15 ~ 15:55	総合討論 テーマ：『S7 共同声明を踏まえた我が国のブレインヘルス戦略：研究、医療、行政、企業、当事者・家族との対話』 司 会 林 由起子 (日本学術会議第 26 期連携会員／東京医科大学学長／病態生理学分野主任教授) 柚崎 通介 (日本学術会議第 26 期第二部会員／基礎医学委員会神経科学分科会委員長／慶應義塾大学 WPI-Bio2Q 特任教授) パネリスト 中田 栄介 (文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長) 石山 健夫 (住友ファーマ株式会社 R & D 本部副本部長 (創薬研究) 兼 CNS 創薬研究ユニット長) 夏苅 郁子 (全国精神保健福祉会連合会 理事)
15:55 ~ 16:00	まとめ 柚崎 通介 (日本学術会議第 26 期第二部会員／基礎医学委員会神経科学分科会委員長／慶應義塾大学 WPI-Bio2Q 特任教授) 林 由起子 (日本学術会議第 26 期連携会員／東京医科大学学長／病態生理学分野主任教授)
16:00	閉 会

主催 日本歴史学協会 日本学術会議史学委員会

同 教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会

後援 高大連携歴史教育研究会

歴史教育シンポジウム

高校歴史教育改革を大学教養教育にどうつなげるか

2026年10月24日（土曜日）午後1時～5時

ハイブリッド開催 対面会場：一橋大学（東キャンパス）東2号館 2201教室

新課程による大学入学試験も2回目を終え、大学生のほぼ半分が新課程の歴史教育の履修者となった今、高校の歴史教育改革を大学の教養課程でどのように活かしていくかが問われている。今回は、高校と大学の対話を通じて、歴史教育の高大連携の可能性と課題について検討することにした。

プログラム

開会挨拶：若尾政希（人間文化研究機構理事・一橋大学大学名誉教授
日本歴史学協会委員長）

総合司会：大橋幸泰（早稲田大学教授、日本学術会議会員）

趣旨説明：鈴木茂（名古屋外国語大学、日本歴史学協会歴史教育特別委員長）

報告

古谷大輔氏（大阪大学教授）

「「立ち位置」を問う教養教育—大阪大学における歴史総合との接統一」

鹿住大助氏（島根大学教授）

「教養教育・歴史科目における大学生の学び：島根大学「大学で学ぶ世界史」の授業実践と受講生

調査」

本澤桂子氏（栃木県立矢板東高等学校主幹教諭）

「大学受験指導と歴史を学ぶ意味の狭間で」

植木啓介氏（東京都立武蔵高等学校・附属中学校）

「歴史」のバイアスと「私」のバイアスを問いなおす歴史教育」

パネルディスカッション・総合討論

司会・進行：林佳世子（国立大学協会専務理事、東京外国語大学名誉教授）

平野千果子（武蔵大学特任教授、日本歴史学協会常任委員）

閉会挨拶

小田中直樹（東北大学教授、日本学術会議会員）

※参加ご希望の方は下記URL・右QRコードよりお申し込み下さい。（10月21日〆切）

※報告レジュメ等は、当日、チャット等で共有させていただきます。

https://keio-univ.zoom.us/meeting/register/M_ipmB9eQ_yBEZoSXzguJw

※対面会場アクセス：下記URL・右URLコードで表示される地図31番の建物です。

<https://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html>



公開シンポジウム
「今に生きる・活かす古典を考える
—倫理・道德教育における古典活用の可能性」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会、心理学・教育学委員会、哲学委員会・心理学・教育学委員会合同今に生きる・活かす古典を考える分科会
2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合、特定非営利活動法人世界哲学会議推進会
3. 日 時：令和8（2026）年10月25日（日）13：00 ～ 17：00
4. 場 所：東京大学本郷キャンパス法文2号館第一番教室（東京都文京区本郷7-3-1）（ハイブリッド開催）
5. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

6. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議哲学委員会・心理学・教育学委員会合同「今に生きる・活かす古典を考える」分科会が取りまとめて公表を予定している見解「今に生きる・活かす古典—倫理・道德教育における古典活用の可能性」を受けて開催するものである。

第1部では、見解の内容を紹介した上で、高等学校教育現場からのコメント、ならびに諸外国における哲学・古典教育の事例を踏まえ、倫理・道德教育における古典活用の意義と課題を検討する。第2部では、古典を素材とした哲学対話のワークショップを行い、参加者とともに、古典が現代の思考・対話・学びにどのようにいかされ得るかを考える機会とする。

9. 次 第：

司会：中村 征樹（日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構教授）

開会挨拶：河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授/日本哲学系諸学会連合事務局長）

趣旨説明：加藤 隆宏（日本学術会議連携会員／東京大学大学院人文社会系研究科教授）

第一部 講演とパネルディスカッション

話題提供1：津崎 良典（筑波大学人文社会系教授）「なぜ古典を読むのか—見解「今に生きる・活かす古典」をめぐって」

話題提供2：山本 智也（筑波大学附属駒場中・高等学校教諭）「高校公民科における古典を活用した授業の意義と課題」

話題提供3：阿部 ふく子（新潟大学人文学部准教授）「対話とテキストを媒介する哲学教育」

パネルディスカッション・コメンテーター：

河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授／日本哲学系諸学会連合事務局長）

第二部 古典ワークショップ—第一部講演をテーマとして

総合ファシリテータ：

河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授／日本哲学系諸学会連合事務局長）

グループに分かれての一般参加者と話題提供者、学術会議会員・連携会員による対話
全体統括

閉会挨拶

吉水 千鶴子（日本学術会議第一部会員／公益財団法人東洋文庫研究部研究員／筑波大学人文社会系名誉教授）

公開シンポジウム
「文化財の未来をつくるのは誰か～SDGs、地域、防災、キャリア～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会文化財の保存と活用に関する分科会
2. 共 催：奈良女子大学、岡山大学文明動態学研究所
3. 後 援：奈良県教育委員会
4. 日 時：令和8（2026）年10月25日（日）13：30 ～ 17：00
5. 場 所：奈良女子大学（奈良県奈良市北魚屋東町）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 開催趣旨：

日本各地には、遺跡や建造物、歴史資料など、地域の歴史や文化を物語る数多くの文化財が受け継がれている。文化財は過去を知るための学術的資料であるだけでなく、人々のアイデンティティや地域社会の記憶を支える重要な社会資源でもある。しかし現在、人口減少や少子高齢化、自然災害の激甚化、地域社会の担い手不足などを背景として、文化財の保存・活用は大きな転換点を迎えている。また、文化財をめぐるのは、観光や地域振興、SDGs、防災・減災など、多様な社会課題との関わりもますます重要になっている。

こうした状況の中で、文化財の未来を支えていくためには、研究者や行政担当者だけでなく、市民、とりわけ次世代を担う若い世代が文化財の価値と課題を自ら考え、社会全体でその保存と活用のあり方を議論していくことが不可欠である。文化財は「守るもの」であると同時に、「未来へ引き継ぐもの」であり、そのあり方を決めるのは私たち一人ひとりである。

本シンポジウムでは、都市の歴史を読み解く学術研究の意義、文化財保護と防災、人口減少や災害が文化財に及ぼす影響、SDGs との関係、パブリックアーケオロジ、文化財に関わる多様なキャリアなどをテーマとして、第一線の研究者・実務者が最新の知見を紹介する。さらに、高校生・大学生を交えた全体討論を通して、「文化財の未来をつくるのは誰か」という問いを参加者全員で考え、これからの文化財保存と活用の新たな方向性を展望したい。

8. 次 第：

13 時 30 分

開会あいさつ（未定）

司会 宮路 淳子（日本学術会議連携会員／奈良女子大学研究院人文科学系教授）

趣旨説明 松本 直子（日本学術会議第一部会員／岡山大学文明動態学研究所教授）

13 時 35 分

基調講演 1 「文化財からわかる都市の歴史」（研究の重要性）

近江 俊秀（奈良大学文学部教授） 25 分

13 時 50 分

基調講演 2 「文化財を守ることと防災」（保護の重要性）

禰亘田 佳男（大阪府立弥生文化博物館館長） 25 分

休憩（15 分）

14 時 30 分

話題提供 1 「文化財はなくなる？—災害・人口減少のリアル—」

奥村 弘（日本学術会議連携会員／神戸大学理事・副学長） 15 分

話題提供 2 「文化財と SDGs」

星野 有希枝（日本学術振興会国際事業部長） 15 分

話題提供 3 「文化財は誰のもの？—パブリックアーケオロジ—」

松田 陽（日本学術会議連携会員／東京大学大学院人文社会系研究科准教授） 15 分

話題提供 4 「文化財に関わる仕事」

瀬谷 今日子（和歌山県立紀伊風土記の丘） 15 分

休憩（15 分）

15 時 50 分 質疑応答・全体討論※ 60 分

※近考連（26 大学＋府県）、教育委員会に協力を依頼し、全体討論に高校生と大学生を数名参加させる。

16 時 50 分 閉会あいさつ（未定）